
編集後記

平成30年(2018年)を表す漢字が「災」であったように、昨年は6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、8月の猛暑、酷暑、9月の大型台風21号、同じく9月の北海道胆振東部地震と立て続けに起きた自然災害で多くの方が被災されました。大規模な停電や交通機関の運休により、医療機関も通常通りの診療ができない事態も発生しました。今後も、今までに経験したことのない異常気象も頻繁に起こることが予測され、医療関係者は、なお一層災害対策の必要性を痛感したことと思います。今や想定外で済まされる時代ではなく、対処可能な準備をしっかりと想定内で納めることの必然性が増してきているように思います。

さて、今年(2019年)は天皇陛下が4月30日に退位され、翌5月1日には皇太子殿下が新天皇に即位されます。約30年続いた平成の時代に幕を閉じ、新しい元号が始まります。ちなみに今まで、元号は200以上も使われてきており、1番長く続いたものは昭和(1926年～1989年)で64年間です。次いで明治(1868年～1912年)の45年間、応永(1394年～1428年)の35年間、その次に平成(1989年～2019年)の30年間となります。2019年2月24日の天皇陛下の在位30年の記念式典、2019年4月10日の天皇陛下のご成婚60年の記念日を経て4月30日の退位の運びとなります。国民は新しい時代に大いに期待していることと思います。

会誌34巻1号では2018年11月11日に仙台市で開催された本会主催の研修セミナー「透析医療における Current Topics 2018」の講演内容を始めとし、医療安全対策では、まさに昨年度の大規模災害における各地からの被害と対応の報告が掲載されており、多くの教訓を学ぶことができると思います。また日本透析医会の公募研究助成を受けられた平成27年度の1件と28年度の3件の研究内容が報告されており、いずれもが近い将来の臨床につながる興味あふれるものです。そして末期腎不全患者の尊厳を保ちつついかに透析医療が関わっていくべきかに関する報告も重要であると思います。ぜひご一読ください。本号が、皆様のお役に立つことを確信しております。

会誌編集委員 今田直樹